

もうずいぶん前のこと
になる。外国にいたこ
ろ、その国の友人の神父
から次のように聞かれ
た。「君は自分の国の政
府のやり方についてどう
思うか」。当時、政治に
ほとんど興味をもってい
なかった私は「別に…
問題ないと思う。まあ、
いいんじゃないの」と答
えた。彼は不思議な顔を
して「おまえ、それでい
いのか。おまえはバカ
か。自分の考えはないの
か」と少し強い口調でた
しなめるように言った▼
幼少のころからの自分の
歩みを振り返ってみる

地の塩

2005.3.13

と、結構自分では素直な
生き方をしてきたつもり
である。素直な生き方と
は、親の言うことを聞
き、先生や聖職者の教え
ることを反抗や反発もし
ないで聞き入れ、人との
争いを避けるために自分
を抑えて、思ったままの
自分を出さないこと。そ
のため、自分を「いい子」

と思い込み、おそらく周
りの人たちもそう思っ
ていただろう▼先の友人と
の会話をきっかけに「批
判」ということを考える
ようになった。考えると
いうより、「批判」するよ
うになった。本欄を書く
ようになって十年以上
になる。多くの読者に支え
られ、励ましもいただい
たが、かつての自分を知
る読者からは、私の批判
的な姿勢を疑問視する声
が聞こえてきたこともあ
る▼「批判」は決して悪
いことではない。かつて
「批判」することができ
なかったのは自分の意見
がなかったからだとい
うことに気づいた。何事
に対しても受け身の姿勢
でいたからではないか。日
本では、特に教会では
「批判」は嫌われる。意
見があれば、当然批判す
ることになる。あるとき
は対立も生じるかもしれ
ない。しかし、そこから
いいものが生まれてくる
のではないだろうか。批
判に感情が入るからおか
しくなるのであって、冷
静にかつ謙虚にありのま
まの自分を出せば良い結
果が出てくるものであ
る。あの友人に感謝した
。